

日本とユダヤの関係

八紘一宇がプロトコールと同様の世界征服思想と見なされた！！

我が国がユダヤを認識した最初はシェークスピアの「ヴェニスの商人」の紹介に始まる。知識人には守銭奴的人間像が形成される。次の認識は日露戦争の戦費調達。第一回募集1千ポンドのうち、米英両国で500ポンドしか達成されず、日本銀行副総裁の高橋是清は苦しんだが、アメリカ・ユダヤ人教会会長のヤコブ・シフが武士道を読んだ関係もあり、残金500ポンドを引き受け、日本は辛くも勝利出来た。



ヤコブ・シフと高橋是清

日本・ユダヤ同祖論では、「大辟（おおさけ）神社（京都市右京区太秦蜂岡町にある神社）」の研究から、ウズ＝イエス、マサ＝メシアの転訛語（てんかご）と結論し、京都の太秦に帰化した秦氏をユダヤ民族なり・・・とした。又、『ヘブライ民族中、最も勇敢なる「ガド族」と宗族の継承者「マナセ族」とは伝国の神宝を奉じ、東方に遁れ、その行方、杳（よう）として今に至るも判明せざるは欧米各国や聖書学者のよく識る所なり』の猶太經典から、日本と相似るところすこぶる多し・・・として研究され 同祖論が広まった。例えば、「ミカド」は御カドであり、日本に於いては族長を尊んで「御カド」、即ちミカドとなった。・・・このような論の運び方が多く見られる。

「ユダヤ禍」論の元凶とされた『シオン長老の議定書』（プロトコール）はユダヤ人の世界征服計画として流布され、ドイツの反ユダヤ宣伝に利用され、1939年の1月30日にはドイツ帝国議会で 35年の第二級国民（ユダヤ人）宣言に続いて、ユダヤ人絶滅宣言がなされ、ソ連領内のユダヤ人大量射殺や、水晶の夜の大迫害、また悲惨なガス室へと続いて行く。戦後もガス室の収容所所長アイヒマン親衛隊陸軍中佐のアルゼンチン逃亡の為のパスポートをローマ法王庁が発行し、後に「七つの罪」として懺悔した。米英もユダヤ人には同情的でも、実際にはガス室送りに協力した。この元凶とされ

たプロトコールは戦後、スイス政府の調査で偽作者は帝政ロシアの官吏であったことが判明している。



アウシュヴィッツのユダヤ人強制収容所

上記の反ユダヤ主義の元凶とされた「シオン長老の議定書」と同様、白人国家の国際社会に於いて有色人として毛嫌いされた日本の興隆は目障（めざわ）りであり、人種差別撤廃を訴えるなど、各国の国益上の危険思想であり、日本潰しが生じ、反日思想が生じたのは想像に難くない。故に、反日思想の元凶として八紘一字の思想は世界征服の思想として世界に宣伝され、東京裁判でも世界征服の謀議があった事を捏造すべく必死になったが、失敗し、八紘一字や皇道は日本道徳上の目標である事を認めざるを得なかった。プロトコール=八紘一字ではなく、日本の戦争突入の原因は自衛自存の為であったとマッカーサーもアメリカ上院政治外交合同委員会で述べざるを得なかったのである。

注) マッカーサーの証言

There is practically nothing indigenous to Japan except the silkworm. They lack cotton, they lack wool, they lack petoroleum products, they lack tin, they lack rubber, they lack a great many other things, all which was in the Asiatic basin. They feared that if those supplies were cut off, there would be 10 to 12 million people unoccupied in Japan. Their purpose, therefore, in going to war was largely dictated by security.

<全文訳>

日本は絹産業以外には、固有の産物はほとんど何も無いのです。彼らは綿が無い、羊毛が無い、石油の産出が無い、錫（すず）が無い、ゴムが無い。その他実に多くの原料が欠如してゐる。そしてそれら一切のものがアジアの海域には存在していたのです。もしこれらの原料の供給を断ち切られたら、一千万から一千二百万の失業者が発生するであろうことを彼らは恐れていました。従って、彼らが戦争に飛び込んでいった動機は、大部分が安全保障（自衛自存）の必要に迫られてのことだったのです。

ユダヤのお話を少々させて頂いたのは次回の話の中心人物である樋口季一郎が日本と世界に大きな影響を与えた話に、深い関係があるからである。またそれが軍事機密として処理され外部に洩れなかった為や、教科書に載せてない為、大部分の人達が知らない為、是非知って頂きたい。その理由は、樋口季一郎は隠れた日本の恩人だと思うからである。

平成26年 9月12日

志雲会代表 有馬正能